

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業

平成28年度予算案 : 2,155百万円
（平成27年度予算額 : 2,361百万円）
※運営費交付金中の推計額

（資料3）

先進的な科学技術、理科・数学教育を通して、**生徒の科学的能力や科学的思考力等を培い、将来の国際的な科学技術関係人材を育成**するために、**先進的な理数系教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」として指定し支援。**

「第2期教育振興基本計画」（抄）（平成25年6月14日閣議決定）

- ・ スーパーサイエンスハイスクールの取組を充実させる・・・理数系人材の養成に向けた取組を総合的に推進することにより、理数好きの生徒等を拡大するとともに、優れた素質を持つ生徒等を発掘し、その才能を伸ばし、科学技術人材を戦略的・体系的に育成・確保する。

「教育再生実行会議（第七次提言）」（抄）（平成27年5月14日）

- ・ 特に優れた才能を有する人材の発掘・育成」の取組として、「スーパーサイエンスハイスクール・・・の取組について、学校現場で成果を最大限発揮できるようにするための運用の弾力化を含め、引き続き充実強化する。」

SSH校の主な特徴

（※指定期間：5年、支援上限額：年間9～16百万円、指定校数：203校（H27現在））

新規指定：25校程度（H28予定）

- 学習指導要領の枠を超え、**理数を重視した教育課程**を編成
- 主体的・協働的な学び（いわゆる**アクティブ・ラーニング**）を重視
- 研究者の講義、フィールドワーク等による**興味関心の喚起**
- 国際的な活動**（海外生徒との交流、国際学会での発表等）
- 上記取組を**高大連携**や**企業連携**により高度に実施

＜重点枠の設定＞

（※最長3年、支援額：年間7～13百万円、重点枠数：19校（H27現在））

新規指定：10校程度（H28予定）

科学技術人材育成の中核拠点として、更なる取組を行う学校を重点枠に指定

- ・ 理数系カリキュラムや指導法、ネットワーク等を他の学校へ普及し、**地域全体の理数系教育の向上**を目指す。
- ・ 海外の先進的な理数系教育を行う学校等との定常的な連携関係を構築し、**国際性の育成**を図る。

＜SSH校における先進的な取組事例＞

高度な課題研究（平成27年度生徒研究発表大会表彰テーマ）

- 凸レンズにおける“副実像”の出現位置の数式化（熊本県立宇土中学校・高等学校）
- 関東平野の竜巻発生メカニズムに関する研究 —竜巻再現実験装置の開発を通して—
（沖縄県立球陽高等学校）

⇒ 「課題研究」（科学に関する課題を設定し、観察・実験等を通じた研究）において、大学・企業等の支援を受けながら、**主体的・協働的に学習・研究を実施**

海外連携



（京都府立嵯峨野高校）

- 海外連携の組織的推進
- アジアサイエンスワークショップ in シンガポール／京都
- 「サイエンス英語」における共同実験

⇒ **国際的に活躍**する意欲能力の育成

理数への関心の向上



（千葉県立船橋高校）

- 県内の小中高大が連携
- 全県規模の「千葉サイエンススクールフェスティバル」開催
- 高大連携セミナーの開催

⇒ 児童生徒の**理数への関心の喚起**

SSH校は、全国における科学技術人材育成の拠点、理科・数学への関心を喚起する拠点としての役割

主体的に課題を発見解決に結び付けることができる、将来の国際的な科学技術関係人材を育成